

特集
1

新年のご挨拶

病院長 小熊 豊



病院長 小熊 豊

新年明けましておめでとうございます。平成二十三年が皆様にとりまして幸多い一年となりますよう、心から祈念申し上げます。

昨年は民主党政権下での迷走が相次ぎ、活力ある新しい日本の姿を模索するどころか、国民に失望感と不安を与え、暗澹たる思いに駆り立てた二年であったように思います。口先だけの無責任なマニフェスト、経済・雇用・財政基盤の建て直しに方針すら示せない政府、政権争いに明け暮れ、真の政治主導を果たせず、展望の見えない政治、何ともやりきれない

思っているのではないのでしょうか。

医療・介護・福祉の世界でも同様です。医師不足、看護師不足、介護者不足や、過酷な勤務環境は一向に改善せず、診療体制の縮小や閉鎖、医療難民、介護難民の増加、医療・介護経済の悪化、国民皆保険制度の存続が相変わらず危惧されています。医療・福祉の崩壊は地域の崩壊に繋がります。医師の養成数を増やしても一人前になるには十年はかかりますし、診療科偏在、地域偏在、日中と夜間・休日間の診療体制の較差を解消しなくては、今の危機的状况からの脱却はかないません。そのためには、地域に真に必要な医療・介護資源を明らかにし、それに基づいた適正配置、適正就業、経済政策を講ずる必要があります。効率的効果的な医

療資源の活用を図らねばなりません。

また住民への判りやすい説明、正しい啓蒙活動も不可欠な要因で、政府、都道府県、市町村、医療・福祉機関は挙げて取り組む必要があります。最近私は医療のテーマは『納得』にあると考えています。患者サイドの納得、医



療者の納得、そして地域住民、国民、行政の納得です。多くのクリアしなければならぬ問題が山積されていますが、一刻も早く『納得』の世界の実現を目指したいと念じています。



市内唯一のエスカレーターと展望エレベーター

昨年砂川市立病院では新本館が完成し、多くの方々にご利用いただいております。お蔭様で順調に稼動しており、当地域の医療の拠点としてその責を果たしているところとす。開院前の二日間には、四、五〇〇名を超える人々のご参加を得て(圏域内のおよそ三〇人に一人の方にお越しいただいたこととなります)、開院後には費用対効果の高い(自治体病院としては従前に比べ破格破格の

廉価での病院建設です)診療内容、療養環境を実感していただいているものと思えます。

今後も精神科病棟、もの忘れセンター、健診・保育業務を担う南館の整備、立体駐車場の建設が続きます。皆様の益々のご支援をお願いいたしますとともに、福祉と保健・医療を核とした街づくりを目指す砂川市、ならびに近隣の市町村に住む皆様にとりまして、当院が安心と希望と納得の医療を提供できるよう、なお一層努力する所存でございます。

暗い世相、苦しい経済状況ではあります。今年二年をお健やかに、元気に充実してお過ごしいただきますことをお願いして、新年を迎えてのご挨拶とさせていただきます。



新病院 航空写真



1階総合受付



一般病棟のナースステーション